

今と未来の市民のために 限りある財源がどう使われたのか (2021年度決算より)

コロナ禍そして財政非常事態宣言発出2年目となる 2021年度決算は、歳入は約 823億円、歳出は約 770億円、差引額約 53億円と、数字だけ見れば比較的好成績に見えますが、後に国に返金する金額も含んでおり、一過性のものに過ぎません。

コロナ交付金があったからこそ実施できた事業でもある「産後家庭向け配食サービス」は、実績を検証しながら、孤独な子育てに寄り添う事業として拡充・定着を求めました。

道路や側溝、草刈りなどで市には年間約 2400件の要望が届きます。限りある財源で市民要望に応えるためには、新たな発想と仕組みが必要です。市は、市民が道路の不具合をスマホで投稿できる仕組みを11月より始めます。期待したいと思います。

最近よく「ムニシパリズム」という言葉を聞きますが、ネットが目指す市民自治のまちづくりに通じると感じます。今後行財政改革をすすめるうえでも、意識してほしい視点として意見で述べました。



気候危機を庁舎前でアピールするアクションに参加を続けています。次回はぜひ一緒に☆

みんなで観よう！
吹き替え版出演の
小野寺麻理子さんと



いよいよ、日野市が 気候非常事態宣言を発出！

環境フェア(11月6日@イオンモール)や気候市民会議開催に向けた補正予算が計上されました。環境フェアでは、「マイクロプラスチック・ストーリー」の上映や、パネルトークなどが行われ、その場で宣言を発出することです。この映画はニューヨークの小学生が脱プラスチックに取り組むドキュメンタリーで、6月議会でぜひ子ども達に観てほしいとイチオシしました。学校上映の輪が広まるよう、教育関係者にも参加の呼びかけを求めました。

北川原公園ごみ搬入路をめぐる裁判について(報告)

都市計画法上違法と判断された現在の状態を解消していくために、今後は原告団および周辺住民の方々と話し合いを重ねていく旨、市長より報告とお詫びがありました。

住民訴訟の根底にあるのは、広域化を強行した市に対する不信感であると受け止めています。市長には丁寧な話し合いを進めると同時に、**30年後の見通し**を任期中に示すことを求めました。なお、市長への賠償請求については、臨時議会で審議されます。

また、裁判結果を受けて市議会として対応を協議する特別委員会の設置を求める動議、旧統一教会との関係性を拒絶する動議、国葬に反対の意思を表明する緊急決議が出されましたが(いずれもネットは賛成)、賛成少数で否決されました。